



西中・三方交差点 に信号機を設置

広域農道9号線が新設されて以来、公安委員会、警察署に要望していた村内で8個目の信号機が西中・三方交差点（県道白根間瀬線と広域農道9号線交差点）に、いよいよ設置されます。従来から危険な交差点としてリストアップされていましたが、厳しい財政状況のなか、配分が取れず、みなさんにご迷惑をおかけしていました。「信号機が新設されると、従来の慣行でよく交差点内で事故が起きるので注意してほしい」と巻警察署交通課。信号機は今月末までに設置される予定です。安全運転、安全歩行を……。

シートベルトの正しいつけ方を



巻警察署
寺村交通課長

先日、弥彦村の交差点で、出合い頭の衝突事故で、ライトバンを運転

していた運転者が死亡しました。死亡原因はシートベルトを締めつけていなかったため、ハンドルに胸を強打し、肋骨が折れ、その折れた骨が肺に突き刺さったためでした。これは、シートベルトを締めつけていれば、死亡に至らなかったものと思われる事故です。シートベルトは、「まさか」のとき、みなさんの命を守ります。車に乗ったら必ずシートベルトを締め

シートベルト着用推進月間7月1日～8月31日

シートベルトはあなたを守る“命網”

命を守るのが

「シートベルトなんて面倒くさい」「きゅうくつだ」「安全運転をしているから大丈夫だ」、というのが、敬遠される主な理由ですが、シートベルトの着脱は、ほとんどがワンタッチ式。ほんの二、三秒もあれば済むことなのです。では、車が衝突したときのショックは、どのくらいになるでしょうか。時速二〇キロで固定壁にぶつかった場合、そのショックはドライバーの体重の六倍以上といわ

また、最近では、シートベルト着用の法制化が国会で論じられるなど、社会的関心が高まりつつありますが、全国的に見た場合、着用率は依然低いといわれています。

三秒のゆとりが 命を救う

「シートベルトなんて面倒くさい」「きゅうくつだ」「安全運転をしているから大丈夫だ」、というのが、敬遠される主な理由ですが、シートベルトの着脱は、ほとんどがワンタッチ式。ほんの二、三秒もあれば済むことなのです。では、車が衝突したときのショックは、どのくらいになるでしょうか。時速二〇キロで固定壁にぶつかった場合、そのショックはドライバーの体重の六倍以上といわ

また、最近では、シートベルト着用の法制化が国会で論じられるなど、社会的関心が高まりつつありますが、全国的に見た場合、着用率は依然低いといわれています。

きょうから実践 シートベルトの着用を

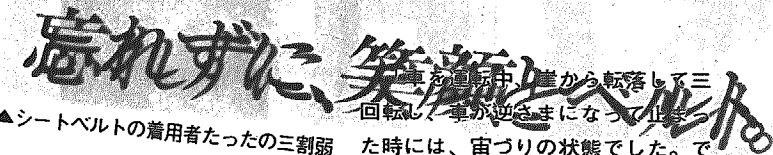
このように、交通事故の際にあなただけの命を守る「命網」となってくれるシートベルトの着用は、いまや運転操作のひとつなのだということを、ぜひ肝に銘じてください。マイカーによるレジャーや帰省の機会も多くなる季節。「シートベルトなしでクルマに乗るな」ときょうから徹底したいものです。



面倒くさいのですか!?



▲シンボルマーク



▲シートベルトの着用者たったの三割弱

最近におけるわが国の交通状況は、車両台数および運転免許保有者の著しい増加による「交通の肥大化」で、交通事故による死者が増えています。昭和五十八年中の交通事故による死者は、九千五百二十人で、そのうち自動車乗車中の人が三千四

百八十七人と、全体の三六・六割を占めています。しかも、そのほとんどがシートベルトを着用していなかった人たちで、もし、シートベルトを着用していたら、助かったとみられる事例がほとんどだといわれています。

時には、宙つりの状態でした。でも、シートベルトを締めていたおかげで、ほとんど衝撃がなく、肩にかすり傷を負っただけ。生きていられたのが信じられません——シートベルトを締めていたおかげで、命が助かったほんの一例です。

シートベルトは、車を運転するときの「命網」。——しかし、着用率はまだまだ低く、ドライバー10人中3人にも満たない、という嘆かわしい実情です。そして、「自動車乗車中の死者の98%が、シートベルトをしていなかった」（警察庁調査）という見逃せない結果も報告されています。